

松阪高校の甲子園出場

桑名高校（以下桑高と書く）同窓会の公式HPがあるが、余り活発とは言えない。昨秋に私が同窓会長に選任されて、HPの活性化に何かをしたいと考えていたが、思いついた時に気軽な随想めいたものでPCの画面を汚してみようと思いついた。そして表題を「**徳成随風**（とくなり・ずいふう）」とした。「**徳成**」とは私が住んでいる地名である。即ち桑高の南に連なる丘陵地であって、自宅から2、3分も出れば桑高の運動場が見える。「**随風**」という言葉は私の造語で、辞典にはないように思う。「風のままに」とか「風にまかせて」という意味で使っているから、どこに吹き飛んでいくのやら。桑高以外のことにも触れていきたいと思うので、まさに風まかせである。

さて、今年の夏の高校硬式野球三重大会の決勝戦はいなべ総合学園高校と松阪高校（以下松高と書く）の県立高校同士の対戦となり、松高が優勝して、初めて甲子園へ出場した。私は松高に親近感を持って、うれしく思った。なぜなら我が母校の桑高と松高は共に1910（明治43）年の創立であり、それも郡立高等女学校が始まりである。その後市立高等女学校（前身は町立裁縫女学校）、旧制中学校を合併した歴史が似ているのである。

また、共に家政科（家庭科）や商業科があったが、いずれも廃止されていて、今は普通科と理数科がある（桑高は特別に衛生看護科があるが）。桑高には定時制があり、松高には通信制があるのも似ている。

ただ、松高の野球部は47（昭和22）年に創設という新聞記事を見て、調べてみたら、旧制の松阪中学校は46年の創立である。終戦直後にできた旧制中学校である。この点が桑高と違う点である。松阪は江戸時代から工業・商業が盛んな町であって、工業学校・商業学校が早くに創設されたようだ。

また共に進学校と報じられている。進学校と言われる場合、何を持って基準とするのか、私は知らないが、世間一般では有名国公立・私立大学への進学者が多いことかもしれない。ちなみに県下の主な公立高校の2012（平成24）年度の国公立大学への合格者数を各高校のHPから拾い出すと、四日市高が286人、津高が262人、桑高が155人、伊勢高が154人、松高は99人である。

旧制の桑名中学校は23（大正12）年に創立されたが、4年後の26年に野球部が出来て、翌年の27（昭和2）年から夏の大会に出ている。中学校時代は殆んど1回戦で敗退している。しかし37年には準決勝戦まで進んだ。

新制の桑高になってから49年の夏は準決勝戦で敗退したが、同年の秋は優

勝し、50年の春も優勝した。しかし同年夏は準決勝戦で敗退。同年秋には優勝したので、51年春の甲子園（選抜）には出場候補となり、校旗と校歌の録音盤の用意が要請された。しかし、選抜に漏れて出場できなかった。同年夏には準決勝戦で敗退。

55年夏も準決勝戦で敗退。この時の相手は四日市高校で、全国優勝したチームだった。その後は90（平成2）年夏と2002年夏にはいずれも準決勝戦まで進んだが、敗退。このように桑高の夏は決勝戦にまで進んだことがない。松高に負けずに、桑高が甲子園へ出る日を待ち望んでいるけど。

(2012.08.27)